

2022-23年度 ◆クラブ会長テーマ◆ 「八重山の未来のために行動しよう」



イマジンロータリー

2022-23年度RI会長テーマ

RI会長：ジェニファーE. ジョーン

地区ガバナー：嶋村 文男

◇ ガバナー信条 ◇

“Take Action for Rotary Future”

“Reach Out for World Peace”

“ロータリーの未来のために行動しよう”

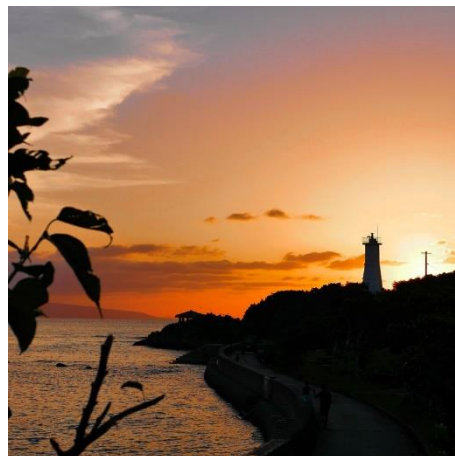
“世界の平和のために手を差しのべよう”

今月のロータリーレート 1\$¥133

島の水景 ～石垣島の水散策～

【琉球観音崎灯台】

米軍統治下に高台に建てられた観音崎灯台。西に突き出た観音崎からは、昼間は名蔵湾や離島の島々が見え、夕方は水平線に沈むサンセットが、夜は満天の星空が楽しめる場所です。高台の海側には、魚が口を開いたような洞窟があり、隠れたフォトスポットにもなっています。



4月のプログラム 4/12(水)会員卓話 4/19(水)ゲスト卓話 4/26(水)ゲスト卓話

ガバナー補佐：仁開 一夫 会長：大浜 勇人 副会長：前原 博一
幹事：松田 新一郎 副幹事：今西 敦之
公共イメージ委員長：山下 暢 SAA・出席委員長：大本 綾子

例会日 水曜日 12:30～13:30
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
TEL/FAX(0980)83-2917
E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

☆総会員数：54名（名誉会員2名・出席免除会員2名）
 ☆出席義務会員数：50名
 ☆出席人数：29名 欠席人数：21名 出席率：58.00%
 <司会進行：玉城一吉>
 ☆ロータリーソング：君が代 奉仕の理想
 ☆ソングリーダー：玉城力

会長挨拶
大浜 勇人



新年度になり、あと3ヵ月のカウントダウンに入り、また3ヵ月のプログラムがほとんど決まりました。新川委員長の尽力でこんなに早く決めていただき、本当に感謝申し上げます。来月には、宮古島に訪問して合同例会を開催したいと思っております。5/19(金)ですので、時間を作ってください、ご参加いただければと思います。6月に入りますと、合同例会で最後の締めめの例会がございます。ホテルコレクティブで開催されます。クラブから30人は集めるようにとガバナーからオーダーが来ておりますので、ぜひ沢山の皆さんで行けたらと考えております。今日は月の初めで、ガバナー月信とロータリーの友がテーブルにあります。ガバナー月信を見ると、いろんなクラブの活動報告等が載っています。私の知合いの埼玉新都心 RC の橋本さんから聞いた話では、いろんな活動をしていて、eスポーツの大会を企業共済を募って、賞金とかを出しながら開催したりと、場所が変わればいろんな事を行っているんだということを知りました。石垣RCも3ヵ月後は、次年度、次々年度と続いていくと思っております。いろんな発想のもと、いろんな事業をしていけたらいいのではないかと考えております。ロータリーの友ですが、47 ページに東京上野RCとの姉妹クラブ締結式の記事が載っております。東京上野RCの会長の記事と写真付きです。ロータリーの友はロータリアンが読むことは義務ですので、全部は読めないと思っておりますが、全体的に目を通して頂いて、いろんな事を行っているのを知って頂ければと思います。ロータリーの友の 35 ページには、ロータリーの分区図というのがございます。先輩方は何度も見ていると思っておりますが、日本には、こんな地区があり会員数も書かれていますので、新しく入った会員には、お目通し頂ければと思います。本日は、西表会員による職業奉仕についての卓話です。宜しくお願い致します。

☆ 幹事報告・松田 新一郎 ☆

前回の例会でもご案内いたしましたが、陸上自衛隊駐屯地開設記念、石垣駐屯地歓迎会を4/16(日)アートホテル石垣島において開催されます。チケットの購入は事務局までお願い致します。竹富小中学校創立130周年の記念事業として記念誌が届いております。そのなかにおいて、特別表彰として、当クラブが平成16年度から令和4年度まで19年間にわたり、図書券を寄贈と記載されています。今年も5月に寄贈することにしてあります。本日の理事会において、親睦の握手の再開については、新型コロナ感染の位置付けが、5/8より5類になることによって5/10の例会より親睦の握手を再開したいと考えております。こちらは理事会の審議を通りましたのでご案内申し上げます。

☆ 会員・委員会からの報告 ☆

今西敦之副幹事：次年度からの報告でございます。4/14(金)東京のホテル椿山荘にて、地区研修協議会が開催されます。当クラブより出席される会員の方につきましては、13時からの登録、14時から本会議、17:20より部門別、終了後には懇親会になっております。事務局からSlakでご案内が届いているかと思っておりますので、再度確認の上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。
 森田安高国際委員長：今年の国際大会のご案内です。これからでも申込みされたい方がいらっしゃればということで、ご報告させていただきます。石垣クラブからは11名の参加が確定しています。また、那覇東RCは14名の人数で動いています。他の沖縄分区のほうも1人、2人とか個別にいますので、石垣クラブと内容をまとめて参加できればと思います。那覇東とは、現地に行ってオプションツアーのバスの貸切を共同でしようと考えています。旅費は、オーストラリアメルボルンの旅費と観光料金と国内旅費も含めての料金が出てきました。4/13(木)が締切日になりますので、4/12(水)までにお申し込みをお願いいたします。今年4年ぶりぐらいの大会になります。現地では日本と違った雰囲気を感じていますし、コロナ明けで活気に沸いています。これまでとの常識が変わっているところもありますけれども、是非とも皆さん、興味がある方はお声がけください。宜しくお願い致します。
 新川正人プログラム委員長：今日から4月の例会がスタートして、残り3ヵ月が今年度の例会となりました。今後のプログラムをご紹介致します。4月は、会員卓話とゲスト卓話で決まっております。5/3はGWで休会、5/19(金)は、宮古島RCとの合同例会を宮古島で開催致します。詳細につきましては、取りまとめてご案内いたします。5/31日は国際大会の振替休会です。6/16(金)は合同例会、ホテルコレクティブで開催されます。こちらの合同例会につきましては、仁開ガバナー補佐から5/10に卓話の時間を使いまして、いろんなお話と目的をご紹介いただけたらと思います。6/28(水)が今年度さいごの例会ですので、納会として夜間例会をします。納会ですので、大浜会長と松田幹事の意向に基づいてサポートして参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

☆ 会員卓話：西表浩司職業奉仕委員長 ☆

☆ テーマ ☆ 奉仕の理念を未来へつなぐ

今回で2回目の卓話です。1回目は釣りとかボートの話です。それから離れて、今日は職業奉仕のお話をする運びとなりました。宜しくお願い致します。『奉仕の理念を未来へ繋ぐ 決議23-34から紐解く奉仕の心』の題で卓話を致します。なぜ「奉仕の理念」と「決議23-34」を学ぶのでしょうか。皆さんは「奉仕の理念 The ideal of service」という言葉を聞いたことがありますか。「奉仕の理念 The ideal of service」とはロータリーの根本になる考え方で、超私の奉仕 Service above self と最もよく奉仕する者、最も多く報いられる One profits most who serves best この二つの言葉で言い表されます。言い換えると『相手を思いやり、役立つ事をする』を意味します。この「奉仕の理念」を示し、これをロータリアンとして、ロータリークラブとしてどのように実践したら良いかを説いたものが「決議23-34」です。「ロータリーの

成り立ち」ロータリーの創始者は、ポール・ハリスです。ポールは1896年、シカゴで弁護士事務所を開業します。当時のシカゴはたいへん繁栄していましたが、商業道徳は地に落ち、人心の荒廃が進んでました。ポールはその世相の中で心の渇きをどうしたら癒せるのか、悩みます。そして信頼できる仲間と親睦を深める職業人のクラブ、1つの職種から1人という職業人のクラブを作ろうと考えます。そして、ポールは3人の仲間、ガスターバス・ロア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレイと1905年2月23日に会合を開きます。これがのちのロータリークラブ設立に向けての最初の会合です。ロータリーが出来た当初、奉仕という考えはありませんでした。一業種一人という会員制度のクラブで、会員同士で原価での取引をして利益を上げ、会員相互の親睦を深めることが目的だったのです。ある会員が弁理士のドナルド・カーターという方に入会を勧めます。しかし彼は「自分たちの利益だけ考え社会的に何もしない団体に将来性はない。入会を断る。」という強烈な事を言われます。ポールはその言葉を聞いて、「なるほど、その通りだ」と反省。社会に役立つことをしようと思決意します。ロータリーの活動に奉仕という考えが付け加わった重要な出来事でした。このことがきっかけとなり、地域のために良いことができないかと考えるようになっていきました。これが公衆便所の建設計画に発展致します。1909年にはシカゴ市等に働きかけ公衆便所の設置を実現させます。これがシカゴロータリークラブの最初の奉仕活動と言われるものです。この公衆便所の設置をきっかけに、社会に役立つことをしようという、奉仕という考えが入ります。お互いの親睦そして商売でもうけようとする親睦派にとっては、このポールの新しい考え方を受け入れられない会員も出てきます。親睦派と世のため人のための奉仕も大切だとする奉仕派との対立が生まれました。「**シェルドン入会**」最初にロータリーの根本になる考え方が「奉仕の理念」という話をしました。「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」**He profits most who serves best**。これをロータリーに提唱したのが、アーサー・フレデリック・シェルドンです。シェルドンは1908年に、シカゴRCに入会します。彼はミシガン大学で経営学を学び、自身でシェルドン・ビジネス・スクールを経営してました。この「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という考えを経営学の理念として自らのスクールで教えていました。これをロータリーに提唱します。当時シカゴRCの会長であったポール・ハリスは、シェルドンの考え方に共鳴しロータリーに取り入れます。1911年の全米ロータリークラブ連合会の大会において、シェルドンの提唱した、**He profits most who serves best**「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」がロータリー宣言に取り入れられました。この大会では、奉仕に関して**Service, not self**と言う標語も提案されましたが、後に「奉仕の理念」を現すもう一つの言葉、**Service above self**「超我の奉仕」に変わります。シェルドンにより奉仕理念がもたらされ、ロータリーのあるべき姿として自己研鑽により奉仕の心を育み、職業倫

理を高めてゆこう、奉仕活動は個人の立場で行うべき、という考え方が確立して行きます。この考えを推進する人たちを理論提唱派と言います。一方で、1910年頃から理論も大切だけど社会的弱者などに対しての人道的奉仕を実践すべきだ、これをクラブとして実践しようとの考えを基に、身体障害者養護学校設立運動の動きが起こります。この考え方を推進する人たちを理論提唱派に対し奉仕実践派と言います。ロータリーの在り方や奉仕に関してこの二つの考え方の違いを巡り論争が引き起こされます。この奉仕実践派としてオハイオ州エリリアにある病院の院長でエドガー・アレンというロータリアンがいました。アレンは一人息子を踏切事故で亡くすという悲しい経験があり、「わが子も生きていたら同じ障害と闘いながら生きているかもしれない」と思って、自分もお金を出し、自身のクラブにも協力してもらって身体障害者養護学校を造りました。さらに全米身体障害者養護協会を立ち上げ、この運動に積極的に取り組んだ結果、多くの人々に理解され、ロータリーの評価も上がってきました。しかし、ロータリークラブのない所にどのロータリークラブがどのように関わるのかなどの課題が残りました。個人としても、ロータリアンとしても障害者支援事業に心血を注いできた奉仕実践派のアレンを理論提唱派のシェルドンは「全米の問題をロータリークラブが解決すべきとなると論外だ。ロータリーは奉仕の心を学び、研鑽、奉仕は個人奉仕が本質であって、団体奉仕は筋が違う」と非難しました。数々の非難を受け続けたアレンは、思い悩んだ末、1922年にポール・ハリスに自分の思いを綴った手紙を書きました。ポールは「あなたに反対するロータリアンたちの考えは間違っていない。しかし、あなたの活動がロータリー運動に反するとも思えない。両方が調和し解決が図れるよう次の国際大会で提案したい」と返事をくれました。ポールの影響力のもと、ナッシュビルRCのウィリアム・メイニア・ジュニアと言う方が知恵を絞り、提案書を書き上げ、1923年のセントルイス国際大会に三十四号議案として理論派、実践派の主張を調和する提案を行います。国際大会の決議をもって解決しようと言うのが決議23-34です。最初に決議23-34のタイトルについてご説明いたします。「社会奉仕に関する1923年の声明」となっています。「社会奉仕」は、原文では“Community Service”と言います。1923年当時“Community Service”は、今で言う社会奉仕より広い範囲を言っております。家庭、職場、業界全体、町、国を含む社会全体、に対する奉仕と解釈すべきなんです。1927年になって「奉仕」は四大奉仕に分かれ、このうちの1つが「社会奉仕」となりましたが、1923年当時は、奉仕はまだ細分化されていなかったのです。ですので、「決議23-34」のタイトルや位置づけを社会奉仕としてますが、全ての奉仕活動の指針を示しています。それでは「決議23-34」の内容に入っていきたいと思います。ロータリーの基本理念「奉仕の理念」を示したロータリー唯一の公式文章です。決議23-34は国際ロータリーとロータリークラブ、ロータリアンのあるべき姿を明確にし、ロータリアンとロータ

リークラブが行う諸活動の指針を示しています。奉仕の理念を奉仕活動の実践に移すことを説いております。ここで大切な事は「決議 23-34」では、人生哲学の実践とっております。ロータリアン個人もロータリークラブも奉仕の理論を実践に移さなければならないとされています。理論派と実践派の対立をこの決議をもって解決させました。奉仕活動の主体となるのは、個人なのか、団体なのか、という議論がありましたが、「決議 23-34」では、個人奉仕を原則としつつ、クラブの団体奉仕も一定の条件の下で容認されることになりました。それでは、第1項を見に行きましょう。「決議 23-34」の第1項では、ロータリーの定義が明確に規定されています。読み上げると、「ロータリーは、基本的には、1つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものであり、この哲学は奉仕―「超我の奉仕」―の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである」とあります。「奉仕の理念」が明確に述べられています。最初に述べましたが、ロータリーは人生哲学、それは、「超我の奉仕 (Service above self)」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (One profits most who serves best.)」この二つの言葉で言い表しております。それぞれ国際ロータリーの第1モットー、第2モットーにもなっています。この理念は「他人のことを思いやり、他人のために尽くそう」と言い表せます。現在は He が One に変わり、One profits most who serves best. となっています。シェルドンはこのように言っています。利他の心を持って、他人の成功を願うことが、自らが成功する秘訣である。ロータリアンの職業は利益を得るための手段ではなく、その職業を通じて社会に奉仕するためにある。職業奉仕に徹すれば継続的な事業の発展が得られる。1次に第2項です。「本来ロータリークラブは、事業および専門職務に携わる人の代表および地域のリーダーとして、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の4つのことを実行することを目指している人々の集まりである。」まず第1に「奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。」「第2に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。」「第3に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。」「第4に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々が、理

論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。」第3項からはポイントのみ解説いたします。第3項は、国際ロータリーの役割が述べられております。その役割は、奉仕理念の擁護、育成と普及 2.クラブの拡大と援助、運営管理 3.情報伝達機能と各クラブの運営及び社会奉仕活動の標準化。第4項には、ロータリー運動は単なる理念の提唱ではなく、実践哲学であり、奉仕するものは行動しなければならないと定義されています。また、クラブの団体奉仕活動が条件付きで認められています。第5項では、クラブ自治権、クラブと国際ロータリーとの関係について定められています。ロータリークラブは、社会奉仕活動の選択に関して絶対的な権限を持っていますが、ロータリーの目的を無視したり、クラブ本来の目的を危うくするような活動は禁止されています。そして、国際ロータリーは、アドバイスを与えることはできますが、クラブに奉仕活動の命令や禁止をすることはできません。第6項は、クラブが行う奉仕実践の指針が具体的に述べられています。大事なことは、第4項において、ロータリアン個人にも、ロータリークラブにも、奉仕の理念に基づく実践が求められていることを述べたうえで、奉仕活動の実践は個人奉仕が原則であって、クラブが行う奉仕活動は会員の訓練のための例示、サンプルに過ぎないと記載されています。「奉仕の理念を未来へ繋ぐ」ロータリーの歴史から奉仕の理念を示した決議 23-34 までお話いたしました。最後にこの「奉仕の理念」を未来へ繋ぐ大切さに触れます。ロータリーは「思いやりの心をもって他人のために尽くす」人生哲学。それは「超我の奉仕」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」です。これを常に携え、行動・実践に移し、この哲学を次の世代に伝えて行くことです。まず私たちが「奉仕の理念」を学び、携え、実践行動し、次世代に繋ぐことで価値ある未来を創ることが出来るのではないのでしょうか。超我の奉仕「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」を胸に私自身も微力ながら励んでいきたいと思います。

～ 例会風景 ～



本日のニコニコ: ☆大浜勇人氏: 西表会員 卓話ありがとうございました。

☆大田次男氏: 第2回目になるほんじつの卓話ありがとうございます。☆東上里和広氏: 西表さん 卓話ありがとうございます。

☆今西敦之氏: 西表会員 本日の卓話よろしくお願ひ致します。☆松田新一郎氏: 西表委員長、本日はありがとうございました。

☆新川正人氏: 西表さん 卓話ありがとうございます。☆玉城一吉氏: 西表浩司さん 本日はありがとうございました。

◆BOX ¥7,000 (累計 ¥305,000) ◆コイン ¥450 (累計 ¥20,619) 合計 ¥325,619

4月

新里裕樹氏 1日(土) 新賢次氏 2日(日) 大城文博氏 25日(火)
新川正人氏 25日(火) 大本綾子氏 28日(金)

